

まちづくり・
コミュニティ

町会・自治会

防犯・防災・
みまもり

こども

教 育

シニアライフ

健 康

ス ポ ツ

芸術・文化・
趣味

環 境

ふくしと
サポートNPO・
ボランティア

国際交流

男女共同参画

農業・商工業

ホーム > [市民レポーター](#) > NPO法人東久留米福祉オンブズの会が「福祉施設の防災シンポジウム」を開催

「NPO法人東久留米福祉オンブズの会が「福祉施設の防災シンポジウム」を開催

12月4日東久留米市中央図書館視聴覚ホールにて東久留米市社会福祉協議会助成事業として開催されたシンポジウムの概要は次のとおりです。

テーマ 福祉安心のまちづくりシンポジウム

「福祉施設の防災は大丈夫？」

(パネリスト)

東京消防庁東久留米消防署: 予防課長 富井 通高 氏

防災まちづくりの会東久留米: 金澤 淳 氏

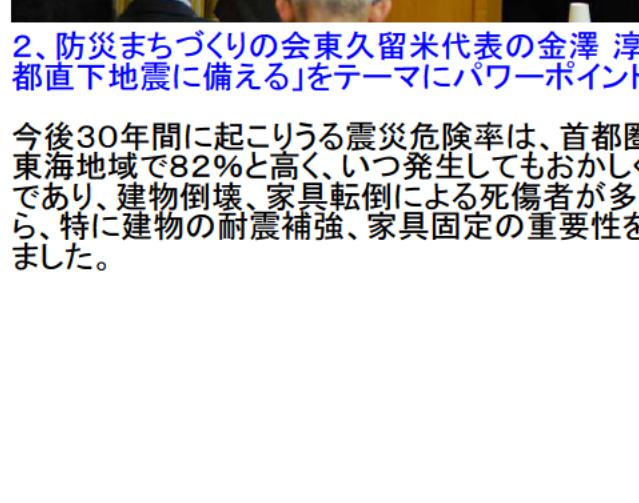
特別擁護老人ホーム「けんちの里」: 金子 昭男 氏

高齢者グループホーム「春の風」: 剣持 栄子 氏

広域地域ケアセンター「バオバブ」: 元倉 康子 氏

聖心会くるみ保育園: 今井 恵子 氏

(進行役) 東久留米福祉オンブズの会: 理事長 矢倉 久泰 氏

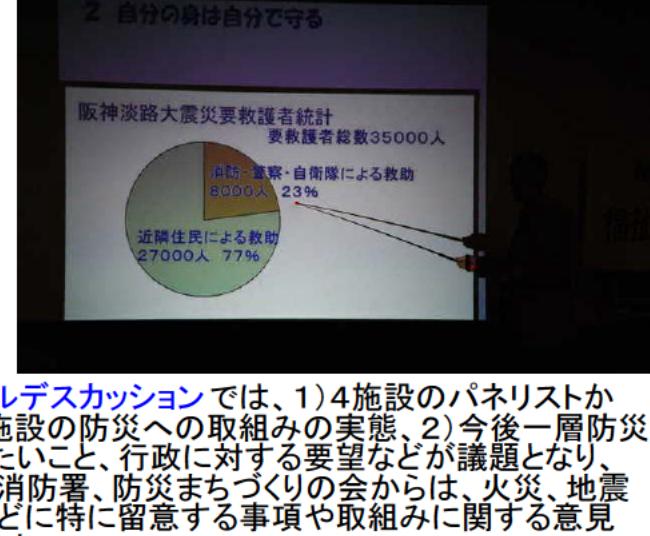


1、福祉オンブズの会: 理事長 矢倉 久泰 氏からの趣旨説明

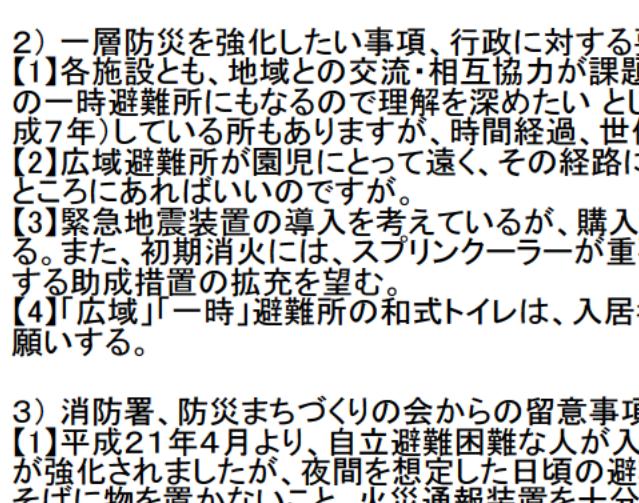
近年、福祉施設で悲惨な火災事故が発生しており、今年3月の札幌のグループホーム火災では入居者7人が焼死するという痛ましい事故がありました。東久留米市の福祉施設で、そのような事故を起こさないために、個々の福祉施設がどのように防災に取組んでいるか、どのように地域の協力を得て、安全なまちづくりに取組んでいるかを話し合い、具体的な提案をまとめたいと思っています。

2、防災まちづくりの会東久留米代表の金澤 淳 氏が「首都直下地震に備える」をテーマにパワーポイントで説明。

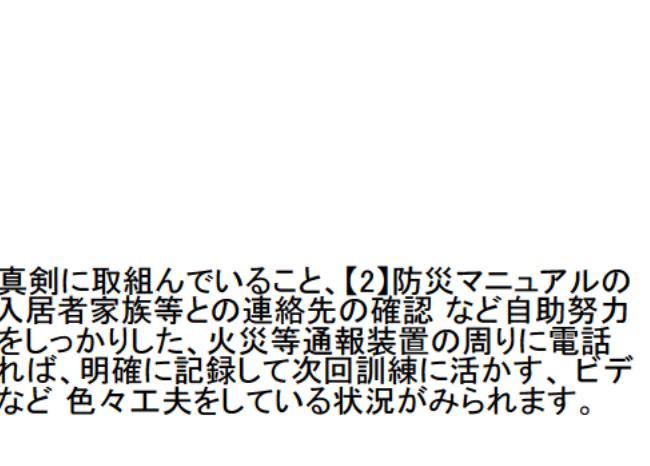
今後30年間に起こりうる震災危険率は、首都圏で70%、東海地域で82%と高く、いつ発生してもおかしくない状況であり、建物倒壊、家具転倒による死傷者が多い実態から、特に建物の耐震補強、家具固定の重要性を強調されました。



また、震災時は、都心に勤務する人はすぐに帰れないため、地元では中学生、元気な高齢者が助ける人に回る必要性を訴えられるなど、聞き手に緊張感が伝わりました。



3、パネルディスカッションでは、1)4施設のパネリストから、当該施設の防災への取組みの実態、2)今後一層防災を強化したいこと、行政に対する要望などが議題となり、一方、3)消防署、防災まちづくりの会からは、火災、地震発生時などに特に留意する事項や取組みに関する意見がありました。



4、各施設とも【1】施設の特質に応じて、避難・防災訓練に真剣に取組んでいること、【2】防災マニュアルの作成、防火管理者の指定、消防署通報装置の作動訓練、入居者家族等との連絡先の確認など自助努力しているが、例えば、園児を守るために棚などの転倒防止をしっかりとし、火災等通報装置の周りに電話番号等の備忘録を備えている、避難訓練時に改善点があれば、明確に記録して次回訓練に活かす、ビデオで施設火災の現場の状況を入居者に流し意識を高めるなど色々工夫をしている状況がみられます。

2) 一層防災を強化したい事項、行政に対する要望など

【1】各施設とも、地域との交流・相互協力が課題であり、また震災時などは介護が必要な高齢者、障害者の一時避難所にもなるので理解を深めたいとしています。なかには、団地自治会と災害時協定を締結(平成7年)している所もありますが、時間経過、世代交代等のため内容を見直したいとしています。

【2】広域避難所が園児にとって遠く、その経路に古いブロック塀や高圧線の箇所があり危惧している。近いところにあればいいのですが。

【3】緊急地震装置の導入を考えているが、購入費用のほか保守費用もかかるので助成措置を望んでいます。また、初期消火には、スプリンクラーが重要とされている。設置したいと考えているので工事費に対する助成措置の拡充を望む。

【4】「広域」「一時」避難所の和式トイレは、入居者がほとんど使用出来ないと思われる所以十分検討をお願いします。

3) 消防署、防災まちづくりの会からの留意事項、意見

【1】平成21年4月より、自立避難困難な人が入所する小規模施設などに対して消防法令の改正など対策が強化されましたが、夜間を想定した日頃の避難・防災訓練の充実、防火管理者の配備、例えば防火戸のそばに物を置かないこと、火災通報装置を十分理解し早期通報すること(通報がうまくいかず災害が拡大した例があります)、消防車が到着した時、施設関係者がその状況を早く的確に伝えることなどが必須です。

【2】地域との協力関係を築くことはどうしても必要であり、都消防庁でも、応援協定書の雛形なども用意しているので、十分なバックアップをしたい。

【3】防災まちづくりの会としても、平常時に行うべき活動や防災手段・方法を取り決めておく計画作りに協力したいと思っている。災害ボランティアの育成や防災情報サロン(例えば社協内)では必要ではないか。六仙公園の早期広域避難所指定のため皆さんの働きかけも重要です。

5、市内施設からの火災実例報告

【1】精神障害者共同作業所「コイノニア」施設長説明

平成20年12月23日午前3時頃火災が発生し、2階を全焼、1階水浸しになる。

事故者はなし(通所施設であり、事故時は無人)。原因は漏電。近所の人から施設長に火災発見の第1報があり、早期の対処が出来たことを感謝しています。

【2】高齢者グループホーム「すみれ」施設長説明

平成22年5月21日午前8時ごろ近接する東側の不動産業事務所から煙があがり、煙が押し寄せてきたので、西側の部屋窓際に入居者を集め、消防隊に誘導をお願いした。幸い延焼は免れた。道路向かいの小笠原医院待合室を一時利用させて頂き、入居者を休息させ、トイレを利用でき感謝している。煙が流れたときはハンカチ、タオルは持っていないが危険であると強く感じました。携帯電話には必要な緊急情報を予め入力している。

以上、有意義なシンポジウムを開催されたNPO法人東久留米福祉オンブズの会の更なる「福祉安心のまちづくり」の推進を期待します。
(市民記者:原田)